いわき市の継続できる殺処分ゼロのスタートラインに立つ

NPO法人動物愛護団体LYSTA

NPO法人動物愛護団体LYSTAは、東日本大震災と原発事故から半年後の2011年9月に、旧警戒区域に取り残された動物たちを救いたいという想いから発足しました。殺処分数の多い福島県で「継続できる殺処分ゼロのスタートラインに立つこと」を目指して日々活動を行っています。LYSTAシェルターや保護猫ふれあいサロンOhana、ペットホテルの運営も行っており、収益は団体の活動資金として活用しています。

【活動背景】
保護活動の成果により、いわき市では犬の殺処分数は減少傾向にある一方で、猫の殺処分数はいまだに約200匹にも及びます。スタッフの数や施設の規模、医療の施術に関して限界がある以上、スタッフも保護犬猫も心身共に健康でいるためには、持続可能な殺処分ゼロの運動が必要です。特に繋殖の早い猫においては、まだ生後間もない子猫が殺処分されてしまう事例が圧倒的に多いのが現状です。

TNR活動の様子

【活動目的】
保健所に収容される猫たちを減らすには、繁殖の悪循環を断たなくてはなりません。そのために、スピード感を持って猫の不妊去勢手術を進めていくことが大きな課題です。並行して、保健所から一般譲渡にならなかった犬や猫を引き取り、新たな里親を探す活動にもより一層力を入れていくことが必要です。

【助成金の用途・活動結果】
助成金は、保護された犬や猫の医療費と、所有者のいない猫の不妊去勢手術のための費用に活用されました。年間で922頭の猫の不妊去勢手術が行われ、79頭の犬猫の譲渡を達成しました。また、多頭飼育崩壊により家の中に閉じ込められた猫たちのレスキューや、病気を罹患し、処分寸前だった犬猫の保護・治療により、多くの命が救われました。

【団体からのメッセージ】

保護施設の運営のほかに活動の柱の１つとなっているTNR活動。不妊去勢手術は動物愛護活動の最重要課題と考え、２０１５年から月に一度継続しています。TNR活動の成果が出始め、保健所に持ち込まれる子猫の頭数は減少傾向となっています。それに伴い、これまで殺処分対象となっていた負傷動物等を処分せず、「条件付き譲渡」とするよう行政の意識が変わってきました。私たちも一般譲渡で里親が決まりづらい、シニア期や障害がある犬猫を優先にひきとり、殺処分ゼロへ向けて取り組んで参ります。